

肝 へ

(肝Co活動カンニングペーパー)

～肝Co活動実践編～



厚生労働行政推進調査事業費補助金（肝炎等克服政策研究事業）

「多様な病態に対応可能な肝疾患のトータルケアに資する人材育成及びその活動の質の向上等に関する研究」

研究代表者 江口有一郎

肝Co こんな活動も

臨床検査技師さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝Co）から集めた肝Co活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝Co仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝Coの受講を勧める。仲間を増やす。（肝Coの育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝Coのバッジなどをつけて肝Coの存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝Co活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝Co活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載したTシャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

臨床検査技師さん だからこそ

- 肝炎ウイルス陽性者の拾い上げ方法やリストの作成方法などを施設間で共有する。
- 肝炎ウイルス陽性患者の拾い上げについて同職種にも情報提供する。（日常業務で分野が違っても同職種でも知識が少ない人もいるため）
- SLDについてポスターを掲示したり、腹部超音波検査時などに広く啓発を行う。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
 - 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
 - 受検勧奨のポスターを掲示する。
 - 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
 - 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
 - 受検勧奨資材の見直しをする。
 - 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

臨床検査技師さん だからこそ



- 採血の待合室に無料肝炎ウイルス検査の内容や、肝炎に関する正しい情報を掲示する。
- 来院時の問診票に「無料で肝炎ウイルス検査が受けられます。希望しますか？(はい・いいえ)」の一文を追加する。
- 拠点病院と連携・情報交換を行い、県内企業や老人会などへの出張肝炎検査に参加する。
- 無料肝炎ウイルス検査を実施する。(例) 物品の準備・採血・パンフレットの配布・検査説明。
- 外来採血時に、血液検査の内容や結果の説明をすると同時に、術前検査での HBs 抗原・HCV 抗体検査の結果は後日医師から説明があると伝えておく。
- 検査結果の見かたについて説明する。(肝炎ウイルス検査結果の解釈について、特に HCV 抗体は HBs 抗原とは異なり、中和抗体でないことを説明する。)
- 腹部超音波検査時に肝硬度測定を行い、数値化して肝線維化の程度を伝える。
- 「糖尿病教室」や糖尿病療養指導時に、Fib4-index の計算、腹部超音波検査を勧め、脂肪肝の有無や発がんリスクについて説明する。
- 化学療法やステロイド剤を使用する患者さんの B 型肝炎再活性化リスクのための HBs 抗原検査の推奨並びに治療中の継続したモニタリングを勧める。
- 陽性者への結果報告だけでなく、「役立つ制度の一覧」「肝疾患専門医療機関一覧」「大学肝疾患相談室の案内」を渡す。
- 検査結果を必ず通知しなければならないこと(厚労省通知文を提示して)

を周知する。

- 肝炎ウイルス検査の結果や検査の有無を忘れてしまう患者さんも多いので、「肝炎検査（結果）カード」を作成し渡す。
- 患者さんの検査結果をすみやかに臨床側へ報告する。
- 過去の検査歴より肝炎ウイルス陽性者を拾い上げ、医師へ報告する。
- HBs 抗原と HCV 抗体の初見陽性者を抽出しすみやかに担当医に報告する。
- 一定期間（1 回 / 週等）で HBs 抗原と HCV 抗体の初見陽性者を抽出し肝疾患センターの医師や看護師と共有するシステムを構築する。
- 健診センターの受診時に、事前に肝炎ウイルス検査の未受検者をピックアップする。
- Fib4-index 等、指標の導入をする。（検査部門システムが電カルで演算式を作ってもらい表示できるように働きかける。）
- 紹介状や検査申込書（超音波検査・CT・MRI 等）に、肝炎ウイルス検査の結果が記載される場所を作る。
- 報告書を自動出力できるように、システムを設定する。（検査数や陽性率、収支報告書等）
- 検査依頼がしやすいよう、検査セットを作成する。例）無料肝炎ウイルス検査セット・陽性者の定期検査セット（1 ヶ月・3 ヶ月・6 ヶ月・12 ヶ月等）、CT や MRI と採血・超音波等も同一セットに組み込むなど。
- 透析の 6 ヶ月毎の検査セットに、HBs 抗原・HCV 抗体等を組み込む。
- 糖尿病・脂質異常症の年 1 回検査に超音波検査を組み込む。または誕生日に年 1 回の検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査時の院内フロー図を作成する。
- 検査陽性時に依頼医師 + 肝 Co + 肝臓専門医へ自動メール送信機能を設定する。

受診

肝炎ウイルス検査
陽性者に肝臓専門医での
精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。（症状がない間にも進行しているのですのでに受診するように説明）
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C 型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが 2 倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

臨床検査技師さん だからこそ



- 検査結果の説明（肝炎ウイルス検査の結果・肝機能検査の結果など）と受診を勧める。
- 肝炎ウイルス陽性患者の未受診の抽出をする。（リスト作成、担当医へのアプローチ）
- 肝炎ウイルス陽性患者数、肝疾患専門外来受診、未受診の現状調査を行う。
- 肝炎ウイルス検査の陽性者のリストアップ後、専門医がいる場合は専門医へ、いない場合は ICT 等に相談する。
- 肝炎ウイルス検査で新規の陽性者を、肝臓専門医・肝臓専門看護師・肝臓専門相談員に報告する。
- 肝炎ウイルス検査の新規の陽性者の追加検査を主治医に相談する。
- 肝炎ウイルス検査陽性で精密検査が必要な場合、受検者の希望する専門医療機関を一覧から探し、地域連携室を介し紹介する。
- 医療従事者の針刺し事故後の血液検査を行う。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。（医師の確認後）
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。（両立支援）
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

臨床検査技師さん だからこそ

- 採血時に患者さんの訴えを傾聴する。
- 定期受診・定期検査の重要性を説明する。

フォロー アップ

肝がんの早期発見のため 定期的な検査を勧める

共通の 活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。（治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。）
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であることを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。（対象者）

臨床検査技師さん だからこそ

- 陽性者の定期検査のセット（1 ヶ月・3 ヶ月・6 ヶ月・12 ヶ月等）
- 採血室に定期検査の啓発ポスターを掲示する。
- 腹部超音波検査後に、次回の定期検査について声かけを行う。

肝Co こんな活動も

理学療法士さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝Co）から集めた肝Co活動。
予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。
普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること
(対象が患者さんとその家族)

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝Co仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝Coの受講を勧める。仲間を増やす。（肝Coの育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝Coのバッジなどをつけて肝Coの存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝Co活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝Co活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載したTシャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

理学療法士さん
だからこそ



- 院内の「肝臓病教室」で運動の方法について説明する。
- 地域の運動教室や、高齢者向けの健康教室などで運動の方法を伝える。
- 市民公開講座で「肝臓を守るための運動療法」について講演を行い、運動の重要性を広める。
- リハビリを実施する中で、肝疾患の方へサルコペニア予防の必要性を説明する。
- 運動の方法を患者さんに見やすいように掲示する。
- 肝疾患の方やSLDの方に運動を紹介する。

- 運動療法にいられた患者さんに、栄養士の話もしっかり聞きましょうと説明する。
- 外来にいられた肝疾患の患者さんに運動と栄養のパンフレットを渡す。
- 市民公開講座や肝臓病教室で「指輪っかテスト」「握力検査」を実施し、サルコペニアについて説明する。
- 肝疾患に対してのリハビリの必要性を、職員間でも共有する。
- リハビリ室に肝炎の啓発ポスターを貼る。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
 - 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
 - 受検勧奨のポスターを掲示する。
 - 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
 - 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
 - 受検勧奨資材の見直しをする。
 - 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

理学療法士さん だからこそ



- 地域での運動教室にて、肝炎ウイルス検査を啓発する。
- リハビリ介入時に家族や同居の人の受検歴を聞き、未受検者には受検を勧める。
- 他の疾患でリハビリをされている患者さんでも、未受検者であれば肝炎ウイルス検査を勧める。
- リハビリテーション室に肝炎の受検のポスターを貼ったり、啓発のグッズを置く。
- リハビリ中の会話の中で、肝炎についてや検査が無料でできることをお伝えする。

受診

肝炎ウイルス検査
陽性者に肝臓専門医での
精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍とされているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

理学療法士さん
だからこそ

- 高度肥満の患者さんや糖尿病の患者さんで腹部超音波検査を受けたことがない方には受診を勧める。
- 奈良宣言のポスターを貼り、ALT > 30の患者さんがいたら受診を勧める。

受療

肝炎の治療を
勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんのDAA治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

理学療法士さん
だからこそ



- 筋肉と肝臓の関係について説明し運動の必要性を説明する。
- サルコペニア予防のための運動療法を実施する。
- リハビリスタッフから声かけを行うことで、より運動の必要性を理解していただく。
- 医師の診察後に運動療法を実施する。
- 運動に関する相談を患者さんが気軽にできる環境を作る。(院内の体制、連携を図る。)

- リハビリの目標を決め、達成できたことを見える化して患者さんの意欲向上を図る。
- 入院中の肝疾患患者さんに対する手術前、および術後早期のリハビリを実施する。
- 患者さんに応じたレジスタンストレーニングの指導や負荷量を、評価をしながら調整することで運動意欲向上を図り、運動継続につなげる。
- 個々に応じた運動プログラムの設定、具体的な指導、定期的な評価を行う。

フォローアップ

肝がんの早期発見のため
定期的な検査を勧める

共通の活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であることを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
 - 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
 - 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
 - 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

理学療法士さん だからこそ



- リハビリの継続の必要性を説明する。
- 筋肉が落ちないように自宅での運動の方法を説明する。
- 運動を行った後、腰痛や関節痛が出ていないかチェックする。
- 患者さんが運動を継続できるよう、患者さんと一緒に方法を考える。(チェックリストを作成する、ながら運動をすすめる等)
- 運動を定期的に評価をすることで目標を明確にし、自宅での運動継続につなげる。
- 患者さんが運動を継続できたら一緒に喜ぶ。
- リハビリスタッフも Inbody 測定をする。

肝Co こんな活動も

放射線技師さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）から集めた肝 Co 活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝 Co 仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝 Co の受講を勧める。仲間を増やす。（肝 Co の育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C 型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝 Co のバッジなどをつけて肝 Co の存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝 Co 活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝 Co 活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載した T シャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

放射線技師さん だからこそ



- 整形外科領域等において、肝炎など患者さんと直接接した際は肝炎に関するチラシ等を配布する。
- 放射線検査室の前に肝炎の啓発ポスターを貼る。
- 病院外来受診者の方を対象に、健康教室や肝臓病教室などで肝疾患画像診断について説明する。
- 腹部超音波検査中に脂肪肝のお話をする。
- 市民公開講座等で市民の方に無料の腹部超音波での簡易脂肪肝チェック

をする。

- 市民公開講座等で市民の方にエコー検査等の必要性や、検査について説明する。
- 糖尿病の方に肝がんのリスクが高いため、腹部超音波エコー検査の必要性を説明する。
- アルコールの飲み過ぎ、運動不足、偏った食事などが肝臓に与える影響についてお話しする。
- 健診エコーで脂肪肝と診断された方のリスク因子分析をする。
- 院内において、感染症対策委員会に参加する。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
- 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
- 受検勧奨のポスターを掲示する。
- 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
- 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
- 受検勧奨資材の見直しをする。
- 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

放射線技師さん だからこそ



- 市民公開講座で市民の方に無料の腹部超音波簡易検査で、脂肪肝をチェックする。
- 健診で、ATI を使ったオプションを取り入れる。
- 腹部超音波検査、肝硬度測定、脂肪量測定などの有用性や検査の方法について、ポスターやパンフレットを作成し、説明することで検査への不安の軽減につなげる。

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのすぐ受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

放射線技師さん だからこそ



- 画像検査の必要性の説明をする。
- 手術前スクリーニングとしての肝炎ウイルス検査が陽性の場合には肝臓専門医への受診を勧める。
- 画像検査の種類や内容について説明し患者さんの不安を軽減させる。
- 複数の画像検査を受ける際の、違いや特徴について説明する。
- 前処置が検査に与える影響について説明する。
- 検査の不安に対して傾聴し、不安の解消に努める。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんのDAA治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩まれている患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

放射線技師さん だからこそ

- 画像検査の必要性の説明をする。
- 腹部超音波検査中に脂肪肝のお話をする。
- 画像検査の種類や内容について説明し患者さんの不安を軽減させる。
- 放射線治療やTACEなど不安の患者さんに声かけをする。

- 肝生検や RFA 治療の際に、適切な声掛けをする。
- ご家族の不安に寄り添い検査説明をする。

フォローアップ

肝がんの早期発見のため
定期的な検査を勧める

共通の活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であることを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
 - 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
 - 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
 - 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

放射線技師さん
だからこそ

- 検査時に定期検査の必要性について説明する。
- 継続した経過観察が必要であることを理解してもらう。
- ご家族の協力が得られるよう仲介を行う。

肝Co こんな活動も

保健師さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）から集めた肝 Co 活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝 Co 仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝 Co の受講を勧める。仲間を増やす。（肝 Co の育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C 型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝 Co のバッジなどをつけて肝 Co の存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝 Co 活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝 Co 活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載した T シャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

保健師さん
だからこそ



- 住民に肝炎ウイルス検査を勧める。
- ウイルス性肝疾患の母子への家庭訪問で、育児の不安を傾聴する。
- 高齢者クラブの健康相談で相談を受ける。
- 地域で肝炎に関する健康教育を行う。
- B 型肝炎のワクチンのスケジュールを説明する。
- ワクチン集団接種の時に肝炎予防の啓発をする。
- 肝疾患患者さんの生活での困りごとを確認し、相談にのる。

- 健康相談から必要時は拠点病院などに引き継ぐ。
- 事業所に対し、肝炎に関する健康講話を行う。
- 肝炎ウイルス検査陽性者の家族から健康相談に応じる。
- 健診の機会が少ない若年層（学生等）へウイルス性肝疾患やアルコール、生活習慣病からの肝炎、肝機能障害に関する健康教育を実施する。
- SLD の疑われる方に健診を勧める。
- SLD からの肝がんについて啓発をする。
- サルコペニア予防について啓発をする。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。（検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する）
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
- 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。（職員への周知）
- 受検勧奨のポスターを掲示する。
- 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
- 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
- 受検勧奨資材の見直しをする。
- 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

保健師さん だからこそ



- 他の検診の啓発に併せて、肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- 患者さんや家族から意見を聴取し、肝炎事業の見直しを行う。
- 市民健診の問診で無料肝炎ウイルス検査を勧める。
- 保健指導の際に、肝炎ウイルス検査をしたことがあるかを聞き取り、ない場合は検査を勧める。
- 妊娠届出時に肝炎ウイルス検査について説明をする。
- 地域・健診センター保健師とともに健診時に肝炎ウイルス検査についてのチラシを作成し、受検を勧める。
- 自治体と健診センター間で、肝炎ウイルス検査の受診状況の情報共有ができる体制を整える。
- 健康教育時に無料肝炎ウイルス検査ができる体制を整える。

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

保健師さん だからこそ



- アルコールの飲酒状況の問診や、AUDIT スコアや検診結果から Fib4-index などを使ってアドバイスする。
- 健康相談で肝臓専門医がいる医療機関の情報提供をする。
- 乳児健診時、肝炎ウイルス検査が陽性であるお母さんに受診を勧める。
- 肝炎ウイルス検査陽性者のリストを作成し、受診できているか確認する。
- 検診で初めて陽性と判明した方に今後の検査の案内や助成制度の案内をすることで患者さんの不安を軽減する。
- 健診後の保健指導時（肝機能精密）に肝臓専門医のいる病院を紹介する。
- 肝炎ウイルス検査陽性者の訪問や面接を繰り返し行い信頼関係を構築する。
- 肝炎ウイルス検査陽性者には健診当日に肝疾患専門医療機関への紹介と予約までを行う。
- 健診で肝炎ウイルス検査陽性者がいたら、肝臓専門医を紹介する。
- 重症化予防制度の申請の手続きを行う。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

保健師さん だからこそ



- 治療費助成制度の申請の手続きを行う。
- 肝がん重度肝硬変研究促進事業の手続きを説明する。
- 定期検査費助成制度を利用している肝がん患者さんに肝がん重度肝硬変研究促進事業について説明する。
- 肝疾患に関する制度について、専門職で勉強会を行う。
- C型肝炎未治療の方に最新の治療法や肝臓専門医への受診を勧める。
- 治療費助成制度の申請に来られた方に定期検査の必要性を伝える。

フォロー アップ

肝がんの**早期発見**のため
定期的な**検査**を勧める

共通の 活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であるかを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
 - 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
 - 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
 - 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

保健師さん だからこそ



- 肝炎患者さんへの定期検査や受診の必要性を説明する訪問活動をする。
- 医療費助成制度の申請の際、必ず定期検査を継続してもらうように毎回声かけをする。
- 地域の保健師⇒検診で肝炎陽性者が受診・受療しているか確認する。
- 健診センターの保健師⇒健診で肝炎陽性者→肝臓専門医の紹介→受診・受療しているか確認する。
- 健診時に受診状況の確認と健診データの説明や健康相談を実施する。

肝Co こんな活動も

病棟看護師さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝Co）から集めた肝Co活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝Co仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝Coの受講を勧める。仲間を増やす。（肝Coの育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝Coのバッジなどをつけて肝Coの存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝Co活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝Co活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載したTシャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

病棟看護師さん
だからこそ



- 肝炎ウイルス陽性者や家族に感染経路について説明する。
- 肝炎ウイルス陽性者の家族からの感染対策についての相談に対応する。
- SLD患者さんの腹囲を測る。
- 肝炎ウイルス陽性者へ生活の注意点や出血時の対応について説明をする。
- 日常生活指導（食事・運動・禁酒）を行う。
- 肝炎体操の実施を勧める。
- 正しい感染予防対策について病棟スタッフに指導する。
- 病棟に啓発ポスターの掲示をする。

- 職員（病棟スタッフ）への肝炎に関する最新情報の提供、勉強会を開催する。
- 肝炎すごろくなどを用いて肝炎について啓発する。
- 肝臓病教室で患者さんが不明な所について個別に対応する。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。（検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する）
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
 - 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。（職員への周知）
 - 受検勧奨のポスターを掲示する。
 - 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
 - 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
 - 受検勧奨資材の見直しをする。
 - 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

病棟看護師さん だからこそ



- ウイルス性肝炎の患者さん家族に、肝炎ウイルス検査を勧める。
- カルテを見る際、患者さんの肝炎ウイルス検査歴について確認し、未受検者には検査を勧める。
- 術前検査などの検査結果を陰性でも必ず通知する。（医師と連携する。）
- 産婦人科での肝炎ウイルス検査陽性の妊婦さんや産婦さんに今後の流れを説明し、不安に寄り添う。
- 受検勧奨のポスターを病棟に掲示する。

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。（症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明）
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が

少ないことを伝える。

- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

病棟看護師さん だからこそ

- 術前検査で肝炎ウイルス陽性者がいたら医師に相談し、肝臓専門医への紹介を検討する。
- 肝炎ウイルス検査陽性者で未受診者がいたら、肝臓専門医への受診を勧める。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

病棟看護師さん だからこそ



- 肝がん・肝硬変・肝疾患の患者さんの看護、治療のサポートを行う。
- 患者さんの悩みに応じて他の専門職につなぐ。(MSW、ピアサポートなど)
- 化学療法や免疫抑制剤開始時の HBV 再活性化予防を行う。(肝炎ウイルス陽性ではないか、内服開始となる際の指導や、治療後の検査の必要性について説明する。)
- 肝がんの患者家族のフォローを行う。
- 肝がんの患者さんのターミナルケアを行う。
- 肝がん重度肝硬変の患者さんが肝がん重度肝硬変治療研究促進事業の対象か確認する。
- 肝疾患の患者さんの退院時指導を行う。
- 肝疾患の患者さんの退院時に外来の看護師や MSW などと連携し他院後のサポート体制について話し合う。
- 外来通院中の肝疾患患者さんにご家族への療養支援を行う。(症状管理：肝性脳炎の予防方法、腹水・胸水把握のための体重測定推奨、かゆみマネジメント)

- 肝がんの患者さんの食事・栄養指導を行う。
- 服薬指導と飲みにくい薬の対応方法を説明する。(内服できない患者さんには、内服タイミング・薬剤の種類の変更ができないか、医師・病棟薬剤師と連携・相談する。) 例：アミノバクト→アミノレバンなど
- 過去治療歴のある患者さんで未治療の方に治療の必要性を説明する。
- 肝炎ウイルス陽性の妊婦さんの心理的サポートを行う。

フォローアップ

肝がんの早期発見のため
定期的な検査を勧める

共通の活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であることを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
 - 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
 - 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
 - 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

病棟看護師さん
だからこそ

- 退院後も定期的な通院の必要性を説明する。
- 外来看護師に継続看護を依頼する。
- 地域との連携のための情報提供を行う。(SW との連携)
- アルコール飲酒中の患者さんに断酒会を勧める。
- 肝臓病教室や市民公開講座などイベントを案内する。

肝Co こんな活動も

外来看護師さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）から集めた肝 Co 活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝 Co 仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝 Co の受講を勧める。仲間を増やす。（肝 Co の育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C 型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝 Co のバッジなどをつけて肝 Co の存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝 Co 活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝 Co 活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載した T シャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

外来看護師さん
だからこそ



- 肝炎患者さん以外でも外来受診で気になる方には肝臓食パンフレットを設置。必要時、医師、看護師から配布する。
- DM、BMI が高い、肥満の方や、腹囲が異常値の方がいたら SLD のパンフレットを渡す。「最近では脂肪肝も癌の原因になるって知っていますか？」と声をかける。
- SLD の患者さんの腹囲を測る。
- 肝疾患専用相談電話の対応をする。
- 化学療法や免疫抑制剤使用開始予定のある患者さんに HBV 感染既往（再

活性化のリスク)があるかを確認する。

- ウイルス性肝炎合併妊娠の母親から出生した児の母子感染予防、および精神的サポートを行う。
- 看護の日に啓発をする。
- 肝 Co 以外のコメディカルへ肝炎の知識、肝炎ウイルス検査結果の通知の説明、検査の必要性などを普及する。
- 子供の予防接種について啓発、スケジュールを調整する。
- 他科の外来ブースに肝炎ウイルス検査陽性者に対する対応や相談窓口の案内について掲示する。
- 外来コーディネーターによる勉強会を開催し、他の外来スタッフと情報共有を図り、患者さんへの看護統一を図る。
- 他科 Dr やスタッフからの問い合わせの対応をする。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
- 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
- 受検勧奨のポスターを掲示する。
- 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
- 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
- 受検勧奨資材の見直しをする。
- 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

外来看護師さん だからこそ



- 検査を受けた方に検査結果を伝える。または通知カードや肝炎ウイルス検査シールを渡す。
- HCV や HBV の患者さんの家族やパートナーに肝炎ウイルス検査を勧める。
- 患者さんの病歴や家族歴を聞く。家族や本人が肝炎の可能性がないかを確認、聞き取りをし、必要あれば受検を勧める。例) 肝硬変で加療中→B、C 由来のものか確認する B、C 由来であれば家族や同居中の人にも肝炎ウイルス検査を勧める。
- 妊娠初期の肝炎ウイルス検査結果が陽性の場合、担当医と相談し肝臓専門医と連携するよう伝える。

- 自分が閲覧するカルテ全ての人の肝炎ウイルス検査結果を確認する。未受検であれば検査を勧める。
- 外来患者さんの肝機能に関わる検査値を興味をもってみる。
- 肝炎ウイルス検査結果の説明文書を管理する。(説明が行われているか、その後、紹介されているか)
- 初診患者さんや治療開始の患者さんに対し、他職種と連携し情報共有をはかり橋渡し役を担う。
- 問診表やカルテから未受検者を見つけ、未受検者には検査を勧める。
- 他科の患者さんの術前検査で実施する肝炎ウイルス検査が陽性の場合、担当医と相談し、肝臓専門医につなぐよう連携する。

受診

肝炎ウイルス検査陽性者に肝臓専門医での精密検査を勧める

共通の活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

外来看護師さんだからこそ



- DAAでSVR後の患者さんを、肝臓専門医の外来担当日に受診してもらうよう促し、予約を調整する。
- 肝炎のご家族の受診歴を伺い、未受診の場合、受診の予約につなげる。
- 院内の肝炎陽性患者さんの拾い上げを行い、消化器内科への受診を勧める。
- 自分が閲覧するカルテ全ての人の肝炎ウイルス検査結果を確認する。陽性であれば受診歴を確認し、未受診ならば専門医に紹介する。
- 患者さんやご家族の【辛いこと】を伺って、必要時同職種で共有したり、他職種へ伝える。
- C型肝炎やB型肝炎の治療開始時に説明をする。
- 肝炎ウイルス検査陽性者へ精密検査の受診を勧め、初回精密検査費助成制度について説明をする。
- 肝炎ウイルス検査陽性判明時の伝達システムの構築と活用をする。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

外来看護師さん だからこそ



- 治療開始の患者さんに肝炎治療パスを用いて治療の流れを説明する。
- 受診時には問診時に症状や悩み事等ヒアリングを行い相談にのる。
- DAA、LC、HCC などの治療中で体調不良を訴える患者さんの対応をする。
- 外来通院中の肝疾患患者さんにご家族への療養支援を行う。(症状管理：肝性脳症の気付き方、腹水・胸水把握のための体重測定推奨、かゆみマネジメント)(内服：排便状況を確認して下剤確認・調整、新規開始抗ウイルス薬の飲み方と副作用の説明)(制度：介護保険申請・訪問看護師などの利用調整)
- 肝炎治療内容や助成制度の説明および治療中患者のフォローアップを行う。
- 外来診察時に肝炎治療中患者に対する生活指導、相談窓口となる。相談内容によって、多職種との連携をとる
- 患者さんやご家族の【大切にしたいこと】を伺って、同職種で共有したり、他職種へ伝える。
- 肝炎治療パスを作成し、治療スケジュール管理や受診状況を把握する。
- 外来肝疾患患者さんの療養支援へのより良い方法や患者さん・ご家族さんをより理解していくために多職種カンファレンスを企画し運営する。
- 看護師は受診患者様の受診を確認し、検査や受診にもれがないか確認後、毎月の外来委員会で人数の報告を行い医師に周知徹底を図る。
- 病棟と連携し、退院後の患者さんのフォローを行う。

フォロー アップ

肝がんの早期発見のため 定期的な検査を勧める

共通の 活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であるかを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

外来看護師さん だからこそ



- DAA 治療終了後患者のフォローアップ、継続受診、検査の必要性について説明する。
- ウイルス性肝炎の母親から出生したお子さんの予防接種や定期検査、および精神的なサポートを行う。
 - 肝疾患をお持ちの患者さんに定期検査の必要性や通院状況の把握、説明をする。

肝Co こんな活動も

薬局薬剤師さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝Co）から集めた肝Co活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝Co仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝Coの受講を勧める。仲間を増やす。（肝Coの育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝Coのバッジなどをつけて肝Coの存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝Co活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝Co活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載したTシャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

薬局薬剤師さん
だからこそ



- 健康食品・サプリメントの対応をする。
- お薬相談会等での肝炎の治療に関する相談を行う。
- 健康測定などで内臓脂肪測定等から、SLDリスク者の早期発見につなげ、受診につなげる。
- キャンペーン期間を設け、その間は全ての人に肝炎についての資料を渡したりするなど、肝炎についての知識を高めてもらう。
- 学校薬剤師として校内での啓発活動を行う。

- 薬局内で運動、栄養についてリーフレットの配布や勉強会を実施する。
- 薬局にポスターを貼る。
- 肝疾患治療薬と相互作用のある薬を一覧表にまとめる。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
- 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
- 受検勧奨のポスターを掲示する。
- 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
- 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
- 受検勧奨資材の見直しをする。
- 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

薬局薬剤師さん だからこそ



- 健康測定などでウイルス性肝炎の検査歴を確認し、未受検者には肝炎ウイルス検査を勧める。
- 肝機能が悪い患者さんがいたら、検査歴を確認し、未受検ならば検査を勧める。
- 糖尿病の患者さんで腹部超音波検査をしたことがない方には腹部超音波検査を勧める。
- 肝臓関係の市販薬、サプリ等を買求める方に肝炎ウイルス検査が未受検ならば肝炎ウイルス検査を勧める。

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですぐに受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が

少ないことを伝える。

- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

薬局薬剤師さん だからこそ



- 肝臓専門医に受診していない高度肥満の患者さんがいたら受診を勧める。
- 問診や投薬時の対応からの肝炎の既往の確認を行い、未受診者には受診を勧める。
- 健康診断や人間ドックの結果等を基にした受診を勧める。
- 抗がん剤を使用している患者さんにフォローの電話を行い体調、副作用について確認し、状態が悪い場合は受診を勧める。(テレフォンフォローアップ)
- 薬局窓口で相談を受けて、受診や肝 Co を紹介する。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

薬局薬剤師さん だからこそ



- 処方箋に基づく服薬指導、コンプライアンス向上、副作用チェックを行う。
- 問診や投薬時の対応からの肝炎の既往で未治療者には治療についての情報提供を行う。
- 薬の不安について相談を受ける。
- 服薬支援をおこない、飲み忘れがないように患者さんの背景を聞き対策を考える。
- アミノ酸製剤などの飲みにくい薬の服用方法について説明する。
- 内服を分割してよいか等服用方法についての相談を受ける。
- かかりつけ薬剤師として担当し、服用を継続していただけるようフォローしていく。
- 肝炎、肝硬変治療薬服薬中の患者さんにご家族のメンタルケアを行う。
- 抗がん剤を使用している患者が B 型肝炎再活性化の対象でないかを

チェックする。

- 生活パターンを確認し、服薬困難なら処方変更を医師に提案する。
例) エンテカビルなど食事の前後2時間空ける必要がある薬など。
- 服薬上の問題、副作用などのチェックをして、気になる点が見つかったらトレーシングレポートを用い報告する。(病院との連携)

フォローアップ

肝がんの早期発見のため
定期的な検査を勧める

共通の
活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であるかを説明する。
- 定期検査に來られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

薬局薬剤師さん
だからこそ



- 肝炎の既往のある患者さんに定期検査受診の確認を行う。
- 健康診断の定期的な受診を勧める。
- 他の疾患で來られた場合でも、過去に肝炎既往のある患者さんには血液検査の結果を見せてもらい、一緒に肝機能の値を確認する。
- 検査を受けたことを忘れている場合もあるため、「肝炎ウイルス検査受けました」のシールを作成し、結果が陰性でも手帳に貼ってもらう。(お薬手帳の活用)
- 定期検査受診の案内リーフレットを薬局に置く。

肝Co こんな活動も

病院薬剤師さん



- は、患者さんとその家族へ向けてできること
(対象が患者さんとその家族)

全国の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）から集めた肝 Co 活動。
予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。
普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の 活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことでも、肝 Co 仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝 Co の受講を勧める。仲間を増やす。（肝 Co の育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
 - 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
 - 肝 Co のバッジなどをつけて肝 Co の存在をアピールする。
 - 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
 - 上司に肝 Co 活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
 - 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
 - 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
 - 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
 - 肝 Co 活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
 - 病院ホームページから情報を発信する。
 - 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載した T シャツや帽子を着用して参加する。
 - 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
 - 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
 - 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

病院薬剤師さん
だからこそ



- 肝炎に関する相談に対応する。
- お薬相談会等で受診、受検を勧める。
- 肝臓病教室で薬について説明する。
- 服薬確認時にサプリメントや健康食品の使用状況について確認する。
- 健康食品・サプリメントの対応、肝臓に対する影響の評価をする。
 - 院内で B 型肝炎再活性化について勉強会を実施する。
 - 院内で B 型肝炎再活性のリスク患者の拾い上げシステムを構築する。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
 - 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
 - 受検勧奨のポスターを掲示する。
 - 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
 - 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
 - 受検勧奨資材の見直しをする。
 - 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

病院薬剤師さん だからこそ

- 薬局窓口で肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- Fib-4index の説明、普及を行う。
- 問診や投薬の対応時に肝炎既往の確認をする。
- 肝炎治療に関する相談に応じ、受検、受診を勧める。
- 健康測定などの実施にて内臓脂肪測定からの脂肪肝の早期発見につなげる。
- ALT の説明をする。(奈良宣言)

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが 2 倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
 - 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。

- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

病院薬剤師さん だからこそ

- 健康診断結果等を基に受診を勧める。
- 問診や投薬の対応時に肝炎既往の確認をして、未受診者に受診を勧める。
- 糖尿病と肝臓病の関係について説明する。
- B型再活性化の拾い上げシステムを構築する。(抗がん剤、Bio製剤開始時や開始後)

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんのDAA治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

病院薬剤師さん だからこそ



- 肝炎治療薬服用の患者さんへの薬の説明、副作用の説明をする。
- B型肝炎における長期服用時の服薬支援、服薬離脱や悪化防止につなげる。
- 処方箋に基づく服薬指導、コンプライアンスUP、副作用チェックを行う。
- 肝臓病関連の治療薬についての適正使用、副作用について説明する。
- ウイルス性肝炎治療薬についての適正使用、副作用について説明する。
- 肝炎治療に関する相談時に、受検、受診を勧める。
- 肝がんの内服治療を行われている方の副作用について聴取し対応する。
- DAAは中断しないような方法を患者とともに考える。
- アミノ酸製剤などの飲みにくい薬の服用方法について説明し、フレーバーの選択や剤型変更などの服薬支援を行う。
- 内服を分割してよいか、など医師と連携して服用方法についての相談にのる。
- 空腹時内服薬の場合、コンプライアンス向上のためその他の内服薬の内服時間を検討する。
- 院外薬局と肝がんの方の治療について連携する。
- 他科入院中の患者さんが肝臓の薬を服用されている場合、薬の作用、継続の必要性について他科の医療者にも説明する。
- 化学療法前にHBV感染スクリーニングを目的とした検査を依頼する。

フォローアップ

肝がんの早期発見のため
定期的な検査を勧める

共通の活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であることを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

病院薬剤師さん だからこそ

- 治療薬の開始時から定期検査の必要性について説明する。
- B型肝炎再活性の方の結果を経時的に追う。
- 退院後も服薬アドヒアランスが維持されるように服薬指導を実施する。
- 治療計画を定期的に見直し、適切な医療を提供する。
- 肝がんの治療で抗がん剤服薬中の方について、病院と院外薬局と連携する。

肝Co こんな活動も

栄養士さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）から集めた肝 Co 活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことでも、肝 Co 仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝 Co の受講を勧める。仲間を増やす。（肝 Co の育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
 - 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
 - 肝 Co のバッジなどをつけて肝 Co の存在をアピールする。
 - 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
 - 上司に肝 Co 活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
 - 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
 - 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
 - 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
 - 肝 Co 活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
 - 病院ホームページから情報を発信する。
 - 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載した T シャツや帽子を着用して参加する。
 - 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
 - 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
 - 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

栄養士さん
だからこそ



- 食札に「7月28日は世界肝炎デー」等と印字する。
- 栄養支援を受ける全診療科の患者さんやご家族に肝疾患に関する情報提供をする。
- 肝炎啓発チラシ（ポスター）や啓発資材を栄養支援室や待合室に設置する。
- 地域の講演会などで肝炎やSLDについて啓発する。
- レシピ集やリーフレットを作成する。
- 医師とともに市民講座などを開催してSLDについて啓発する。

- 院内の肝臓病教室で栄養、食事療法について説明する。
- 肝臓の病気について、アルコールや飲酒以外の原因についても周知する。
- 健診二次検査で来院する患者さんに予防を含め肝炎の成因の説明をする。
- 新聞記事や TV を介した啓発活動に栄養士として参加する。
- 肝疾患病態専門管理栄養士の資格を取得する。
- サルコペニア予防についての啓発のため、簡単にできる指輪っかテスト方法などを市民公開講座などで説明する。
- 肝臓と飲酒の関係について啓発をする。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
- 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
- 受検勧奨のポスターを掲示する。
- 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
- 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
- 受検勧奨資材の見直しをする。
- 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

栄養士さん だからこそ



- 栄養支援時に肝機能が悪い患者さんには検査歴を確認し、肝炎ウイルス検査が未受検ならば検査を勧める。
- 肝硬変・肝がんの栄養指導した患者さんの家族が、肝炎ウイルス検査を受けたことがあるかどうか確認し、検査歴がなければ無料肝炎ウイルス検査をしている医療機関を案内する。
- 糖尿病や高度肥満症の方の腹部超音波検査歴を確認し、未実施の場合、腹部超音波検査を勧める。
- ご家族も一緒に家族支援講座などの集団支援を行う。
- 他科で術前検査の結果を説明されたか確認する。
- 栄養支援室に肝炎ウイルス検査のポスターや啓発グッズを置く。
- SLD の患者さんとそのご家族への栄養支援を医師に依頼する。

- 院内で様々な職種の肝 Co に関われるように肝炎ウイルス検査受診の際の、受検→受診→受療までの流れをどの部署でも確認できるようにフローチャートを作成する。→スムーズに受検できるように検査オーダーなどセットで作成する。

受診

肝炎ウイルス検査陽性者に肝臓専門医での精密検査を勧める

共通の活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですのでに受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが 2 倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

栄養士さんだからこそ



- 肝臓専門医を受診していない SLD 患者さんに SLD をふまえた栄養支援をする。(糖尿病や心疾患などの栄養支援と併せて)
- 他科から依頼のあった栄養支援で ALT 高値やウイルス性肝炎未治療の患者さんに肝臓専門医への受診を勧める、又は担当医に提案する。
- アミノ酸製剤の服用方法を支援する。(アミノレバンやリーバクト服用のポイント、LES 献立例、LES の必要性を説明する。)
- 栄養支援時、患者さんの気持ちを傾聴する。

受療

肝炎の治療を勧める

共通の活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

栄養士さん だからこそ



- 毎回の栄養支援で InBody 測定を行い、比較して意欲を高める。
- 患者さんと医療従事者と一緒に肝臓病料理教室を行う。
- 薬の副作用による食事の対応の説明をする。
- 院内で入院・外来患者さんにパンフレット等を使用し栄養支援をする。
- SLD 患者さんに診察日に合わせて栄養支援を受けてもらい改善点の提案をする。
- 外食の多い SLD 患者さんが無理なくバランスのいい食事ができるような「食事の組み合わせ例」のパンフレット (ex. コンビニ食や惣菜の) を作成し説明する。
- 無料宅配食試食券を渡して、食事量、内容を体験してもらう。冷凍食品(有料)も案内する。
- 薬や療養などについての相談があった場合に、他職種との連携をとる。
- SLD の患者さんの生活支援のため、理学療法士と連携し、運動と栄養の関連について説明する。
- SLD やサルコペニアの患者さんの運動について、理学療法士と連携する。

フォロー アップ

肝がんの早期発見のため 定期的な検査を勧める

共通の 活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であることを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

栄養士さん だからこそ

- SLD の患者さんの外来栄養支援では、体重記録・食事記録・患者のエピソードを書き込む「体重コントロールファイル」を渡し、次回の栄養支援時にそれをもとに患者さんと一緒に振り返りをする。
- 栄養支援を継続して、患者さんの変化に対応していく。
- 受診時の Inbody 測定を医師より依頼してもらう。

肝Co こんな活動も

ソーシャルワーカー
(SW) さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）から集めた肝 Co 活動。
予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。
普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること
(対象が患者さんとその家族)

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝 Co 仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝 Co の受講を勧める。仲間を増やす。（肝 Co の育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C 型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝 Co のバッジなどをつけて肝 Co の存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝 Co 活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝 Co 活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載した T シャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

SW さん
だからこそ



- 肝臓病教室で利用できる公的サービスや相談室の案内を行う。
- 介護保険制度の説明を行い、地域包括支援センターへつなぐ。
- 啓発活動を通じて受診方法や病院、相談室の案内を行う。
- 肝炎訴訟制度についての紹介、助言を行う。
- 専用相談電話の対応を行う。
- 肝疾患に対する不安や治療方針に対する疑問の相談に対して、自身が学んだ一般的な肝疾患知識を伝えたり、公開されている情報先を案内することで、患者の病識理解の支援を行う。

- 関係機関（例：ケアマネ等）に肝炎の正しい知識を啓発する。
- 医療連携として他機関のSW と転院時の情報提供、新制度の認識共有を行う。
- 肝疾患の制度がわかりやすいリーフレットを作成する。
- 各制度や事業の問い合わせ先、疾患別のガイドブックの掲載サイト、地域ごとの専門医療機関など、患者さん家族からの相談に対応できるよう情報収集を行う。
- 院内外の医療者と関わる際に、肝炎のことで対応に困っている事例について声をかけ合う。
- 病院近隣の調剤薬局に訪問し、肝臓病教室の案内や啓発ティッシュを配架する。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。（検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する）
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
- 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。（職員への周知）
- 受検勧奨のポスターを掲示する。
- 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
- 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
- 受検勧奨資材の見直しをする。
- 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

SW さん だからこそ

- 肝炎ウイルス治療を行う患者さんとの面談時に家族の検査歴について確認し、未受検ならば勧める。

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。（症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明）
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が

少ないことを伝える。

- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

SW さん だからこそ



- 患者や家族にウイルス性肝炎の初回精密検査費助成制度や指定難病等の社会保障制度を説明する。
- 肝機能障害の身体障害者手帳の申請方法や利用出来るサービスの説明をする。
- 傷病手当金や障害年金の申請方法を説明し申請のサポートをする。
- 高額療養費制度の説明をする。
- 制度内容や申請方法の要点をまとめたリーフレットを作成し、面談時に活用し、患者家族へ渡す。
- 医師の外勤先等医療機関や他機関 SW からの制度関連の相談に応じる。
- 医師から肝疾患制度案内の依頼を受けた際、カルテで患者情報（保険や居住地、家族情報など）を確認し、必要に応じて申請支援の必要性や案内のタイミング、制度利用のメリットを伝える。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。（医師の確認後）
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩まれている患者さんのサポートをする。（両立支援）
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

SW さん だからこそ



- 肝炎治療費助成制度の相談に対し説明をする。
- 指定難病の説明をする。
- 肝炎に関する医療費助成制度、肝がん、重度肝硬変研究促進事業の説明をする。
- 患者面談において経済的な不安で DAA 治療を迷っている患者さんに保険や収入等の生活背景を聞き取り、医師に使用予定の薬剤を確認し、具体的な治療にかかる費用を案内する。
- 患者面談において肝疾患患者の退院支援への不安を訴えがあった際、不

安な点を専門医に確認するよう促したり、必要に応じてこちらから専門職の肝 Co と連携し、治療に向け調整する。

- 肝疾患患者の退院支援をする。
- 治療と仕事の両立に支援を必要とする患者さんに、担当医と連携して両立支援する。
- 退職する患者さんに医療保険加入の継続方法について説明する。
- 就労のことについて不安のある患者さんに産業保健総合支援センターを案内する。

フォローアップ

肝がんの早期発見のため
定期的な検査を勧める

共通の活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であるかを説明する。
- 定期検査に來られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

SWさん だからこそ

- 定期検査の必要性、定期検査費助成制度の説明をする。
- 地域へ移動した患者さんが定期的な検査が受けられるよう関係者と連携する。
- 患者さんの同意の上で、制度申請に行かれることを情報提供する。
- 助成制度の申請について患者家族にも説明する。

肝Co こんな活動も

介護士さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）から集めた肝 Co 活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

- は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことでも、肝 Co 仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝 Co の受講を勧める。仲間を増やす。（肝 Co の育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
 - 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
 - 肝 Co のバッジなどをつけて肝 Co の存在をアピールする。
 - 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（テッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
 - 上司に肝 Co 活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
 - 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
 - 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
 - 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
 - 肝 Co 活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
 - 病院ホームページから情報を発信する。
 - 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載した T シャツや帽子を着用して参加する。
 - 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
 - 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
 - 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

介護士さん
だからこそ



- 知り合い、職場の利用者さんや家族に、肝炎ウイルス検査の重要性を説明する。
- 訪問時、利用者宅で本人、家族への啓発活動をする。
- 利用者さんにサルコペニア予防について説明する。
- 患者さん、利用者さんのケア中に、気持ちを傾聴する。
- 事業所内で感染経路や正しい対応方法の勉強会をする。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
 - 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
 - 受検勧奨のポスターを掲示する。
 - 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
 - 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
 - 受検勧奨資材の見直しをする。
 - 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

介護士さん だからこそ

- 利用者さんやご家族で肝炎検査未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 高度肥満の利用者さんの受診状況を把握し、必要時ケアマネ、担当医と相談する。

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
 - 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
 - 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
 - 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

介護士さん だからこそ

- 肝炎既往のある利用者さんで受診歴を確認し、受診していない場合、ケアマネや担当医に相談する。
- ウルソの定期内服がある、グリチルリチン製剤（強ミノファージェン C）を定期的に注射・点滴している、などの情報があったときはウイルス性肝炎が無治療の可能性を考えケアマネと対応を考える。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。（医師の確認後）
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。（両立支援）
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

介護士さん だからこそ



- 利用者さんが肝炎の場合、出血時の対応を正しく把握し対応する。
- ウイルス性肝炎の未治療の利用者さんの治療についてケアマネや担当医と相談する。
- 在宅で筋力が落ちないような運動の方法を理学療法士と連携する。
- 患者さん、利用者さんの薬の管理を行う。

フォロー アップ

肝がんの早期発見のため 定期的な検査を勧める

共通の 活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。（治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。）
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であることを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。（対象者）

介護士さん だからこそ

- 治療歴のある患者さんに定期検査を受診するよう説明する。
- 治療歴のある利用者さんが定期検査を受診するようケアマネや医師と連携する。

肝Co こんな活動も

事務さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）から集めた肝 Co 活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

- は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことでも、肝 Co 仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝 Co の受講を勧める。仲間を増やす。（肝 Co の育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
 - 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
 - 肝 Co のバッジなどをつけて肝 Co の存在をアピールする。
 - 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（テッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
 - 上司に肝 Co 活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
 - 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
 - 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
 - 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
 - 肝 Co 活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
 - 病院ホームページから情報を発信する。
 - 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載した T シャツや帽子を着用して参加する。
 - 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
 - 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
 - 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

事務さん だからこそ

- 肝炎教室などのイベントについて外来患者に案内し、参加を勧める。
- 患者の相談に対応する。
- 受付前 / 外来待合室 / 売店前カフェコーナーに肝炎ウイルス検査案内のリーフレットを設置する。
- 受付前カウンターに手作りの肝 Co 紹介を貼る。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
 - 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
 - 受検勧奨のポスターを掲示する。
 - 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
 - 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
 - 受検勧奨資材の見直しをする。
 - 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

事務さん だからこそ



- 健診 / 人間ドックを受けられるかたへの肝炎ウイルス検査受検の声かけをする。
- 術前検査の採血（肝炎ウイルス検査）の陽性、陰性のいずれかにチェックした説明書（医師、患者の署名あり）を渡す。
 - 外来問診表に肝炎ウイルス検査歴、輸血歴、家族の肝炎歴などの項目を追加し該当の有無をカルテ入力する。
 - 電子カルテを使用する時は、患者の感染症アイコンを意識的に見るように心がける。
 - 無料肝炎ウイルス検査（イベント時）での問診票チェックをする。

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が少ないことを伝える。
- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを

説明する。

- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

事務さん だからこそ



- 窓口で肝炎について尋ねられた際、専門（看護師や薬剤師、医師）などにつなぐ。
- 治療開始前の外来で助成制度の説明をする。
- 初回、精密検査費助成制度の説明をパンフレットを用いて説明する。
- HCV 抗体陽性者やHBs 抗原陽性者に対し受診状況を確認し、未受診の場合受診を勧める。
- 受診日に来られなかった患者さんに連絡をする。
- 専門医療機関の一覧作成、配布、掲示をする。
- 助成制度について患者だけでなく、医師や院内肝 Co への最新の情報を共有する。
- 検査歴から陽性者の拾い上げを行い、陽性者を肝臓専門医につなぐ。
- HCV 抗体陽性者、HBs 抗原陽性者を担当医、または看護師に報告する。

受療

肝炎の治療を
勧める

共通の
活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。（医師の確認後）
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩まれている患者さんのサポートをする。（両立支援）
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

事務さん だからこそ



- 治療開始前の外来での助成制度の説明をパンフレット等を用いてわかりやすく説明する。
- 助成制度申請用の診断書を代行で作成する。
- DAA 治療の副作用、治療後の定期検査についての説明を行う。
- 未治療の C 型肝炎患者に対し治療の案内をする。
- インターフェロンフリー治療後の患者さんへメッセージカードをお渡しする。
- 肝炎訴訟のために使用する医療文書を代行で作成する。
- 肝がん重度肝硬変研究促進事業の対象者を拾い上げ、肝臓専門医や看護師と連携をとる。

フォローアップ

肝がんの早期発見のため
定期的な検査を勧める

共通の活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であるかを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

事務さん だからこそ



- インターフェロンフリー治療後の定期検査の必要性や、助成制度についてパンフレットを使用し説明する。
- 肝炎外来の予約を取り、当日の受診の流れを説明する。
- DAA 治療後に来院されなくなった患者さんに対し連絡し、受診を促す。
- 定期検査未受診者を拾い上げ、担当医師に治療後の定期検査が未実施であることを連絡する。

肝Co こんな活動も

MRさん

労務上の規定により一部活動に悩まれることがあると思います。まずは個人として、そしてMRとして無理せずできる活動から行いましょう。

全国の肝炎医療コーディネーター（肝Co）から集めた肝Co活動。予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

- は、患者さんとその家族へ向けてできること（対象が患者さんとその家族）

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝Co仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝Coの受講を勧める。仲間を増やす。（肝Coの育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝Coのバッジなどをつけて肝Coの存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝Co活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝Co活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載したTシャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

MRさん
だからこそ



- 会社の中で肝Coについて説明する。
- 自社主催の肝炎に関する講演会を各医療機関に案内する。（肝Coの研修を受けることで説得力が増す）
- 啓発イベントに個人として参加する。
- 研修会で肝Coと連携をとる。
- 訪問時に肝炎の情報を伝える。
- 肝Coの活動をメディカルスタッフに紹介する。
- 薬や制度の変更について医療機関や薬局に報告する。

- 自社で分かりやすい啓発資料を作成する際に、アイデアや要望を提供する。
- 肝 Co 活動の事例を講演会などで広める。
- 肝疾患領域所属以外の医療従事者の方々へ肝炎の情報提供をする。
- 該当する情報（肝炎関連の話題やイベント日時など）を SNS 上でシェアする。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。（検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する）
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
- 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。（職員への周知）
- 受検勧奨のポスターを掲示する。
- 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
- 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
- 受検勧奨資料の見直しをする。
- 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

MR さん だからこそ



- 身近な家族、親戚、知り合いに肝炎ウイルス検査を勧奨する。
- 会社の健診で肝炎ウイルス検査の受検をすすめる。
- 肝炎ウイルス無料検査が出来る施設を案内する。
- 自社の職員が無料肝炎検査を受けられるよう関係部署にかけ合う。
- 非専門医療機関、無料検査施設にてポスター等の資料の配布を自社で検討する。
- 非専門医療機関、無料検査施設にて未受検者への受検を勧める。

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。（症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明）
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が

少ないことを伝える。

- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

MRさん だからこそ



- 非専門医療機関に拾い上げについての情報を提供する。
- 肝炎に関する講演会の実施や案内を行う。
- 患者さん説明用の資料を担当医療機関にて配布する。
- 院内拾い上げやB型肝炎再活性化などの知識を講演会を通じて啓発する。
- 主に専門医在籍の病院にて、他診療科の医師、メディカルスタッフに肝炎の情報を提供する。
- 肝疾患領域所属以外の医療従事者の方々へ「奈良宣言」や抗体検査結果告知の必要性を情報提供する。
- 非専門医療機関と専門医療機関の連携に貢献する。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんのDAA治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩んでいる患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

MRさん だからこそ



- 非専門の医師に最新の治療方法について説明する。
- 医療機関と薬局との連携に寄与する。
- 分かりやすい資料作成のための情報収集を行う。
- 肝臓病教室などに参加し、患者さんの体験談を聞き、資料作成の参考にする。
- 治療継続のための資料、パンフレットを薬局にも配布し、協力を依頼する。
- 治療中の患者さんの状況をお聞きし、必要な情報(副作用マネジメントなど)をお伝えする。

フォローアップ

肝がんの早期発見のため
定期的な検査を勧める

共通の活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であるかを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
 - 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
 - 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
 - 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

MRさん だからこそ

- 定期検査の必要性について周知する講演会を実施する。
- フォローアップの必要性をかかりつけ医、かかりつけ薬局へ案内する。
- SVR 後フォローアップに関する患者指導せんを処方医、薬局へ配置する。
- 定期検査の助成について非専門の医師に紹介する。
- 製薬会社として定期検査のサポートができるような資材づくりのアイデアを提供する。

肝Co こんな活動も

患者さん



全国の肝炎医療コーディネーター（肝 Co）から集めた肝 Co 活動。
予防からフォローアップまで、ステップごとにまとめました。
普段使いに、また、活動のステップアップにご利用ください。

● は、患者さんとその家族へ向けてできること
(対象が患者さんとその家族)

予防

肝がん肝硬変予防のため
肝炎の正しい知識を
多くの方に普及する

共通の
活動

- 自分の家族や知り合いなど身近な人に、分かりやすい言葉で正しい肝炎の知識（感染経路、感染対策など）を伝える。
- 肝臓病教室や市民公開講座の開催、参加をする。（全国民へ肝炎について正しい知識を普及する機会を設ける。）
- 肝疾患相談窓口（肝疾患診療連携拠点病院・肝疾患専門医療機関）の案内をする。
- 患者さんから相談された時に、専門外のことも、肝 Co 仲間に相談し解決する方法を探る。
- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 奈良宣言のリーフレットを渡す。
- 肝炎ウイルス検査の結果について確認する。
- 予防接種状況について確認する。
- 患者さんや職員に肝 Co の受講を勧める。仲間を増やす。（肝 Co の育成）
- 院内（または院外）で行われている「肝臓病教室」への参加を勧めて肝臓について学べる機会を案内する。
- 肝炎啓発のポスターを掲示する。（たとえば、C型肝炎は特効薬があり副作用が少ないことや、治療費の助成制度が利用できることなど。）
- 肝 Co のバッジなどをつけて肝 Co の存在をアピールする。
- 世界肝炎デーなどの地域イベント・マルシェなどに参加し肝炎について啓発する。：声かけ、資材活用（ティッシュやうちわなどの配布、啓発マスクやピンバッジ着用など）
- 上司に肝 Co 活動（自分がどんな活動をしているのか等）について説明し理解を得る。
- 肝炎チームを結成、参加し、仲間を増やす。
- 院内の職員にむけ肝炎の知識、検査の必要性などを普及啓発する。
- 院内の医療安全や感染対策委員会などで、拠点病院と連携し受講必須の研修会を開催する。
- 肝 Co 活動報告を院内・院外で行う。地域での研修会、学会発表（活動報告、研究発表など）をする。
- 病院ホームページから情報を発信する。
- 職場で参加するイベントの際に、肝炎ウイルス検査受検推奨の内容を記載した T シャツや帽子を着用して参加する。
- 肝疾患診療連携拠点病院と各医療機関・行政が連携し啓発活動をする。
- 市町村、地下鉄駅、道の駅、薬局へポスター掲示、リーフレット設置を依頼する。
- 肝炎に必要な知識をアップデートする。（定期的な勉強会、研修会への参加）

患者さん
だからこそ



- 都道府県、市町村へポスターの掲示を依頼する。
- 電話相談を受ける。（患者会の事務局）
- 当事者の立場で患者さんの気持ちを傾聴する。
- 患者会の案内を配布する。
- 患者交流会を開催する。
- 自分の経験を話す。
- 患者の立場で学生さん向けに講演をする。
- 肝 Co になる。

- 肝 Co 養成会で講師として体験談を話す。
- 肝炎対策推進協議会で患者としての意見を発言する。
- 医療講演会を開催する。
- 国や県に要望書の提出する。
- 差別偏見についての事例を情報共有する。
- 患者が肝 Co になることの意味を国と共有する。
- 患者同士で勉強会を実施する。
- カミングアウトすることで話の輪が広がることもある。

受検

肝炎ウイルス検査の 受検勧奨を行う

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 未受検者に肝炎ウイルス検査を勧める。
- 無料肝炎ウイルス検査の周知、手続き方法を説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査ができる施設の案内をする。(検査実施施設の一覧表を作成、配布、掲示する)
- 院内イベントなどで無料肝炎ウイルス検査を実施する。
- 院外での啓発イベントで無料検査機関の周知をする。
- 肝炎ウイルス検査を受けられた方に検査結果が伝えられているか確認し、医師につなげる。その際、検査結果通知カードなどを渡す。
- 肝炎ウイルス検査は陰性でも陽性でも検査結果に関わらず通知しなければならないことを周知する。
- 受診者の付き添いの方にも肝炎ウイルス検査の受検を勧める。
- ウイルス性肝炎の患者家族に検査を勧めると同時にワクチンについても説明し接種を勧める。
- サルコペニア判定をする。
- 生活習慣病の方に健康診断や、腹部超音波検査を勧める。
- 術前検査での肝炎ウイルス検査結果説明の実施について主治医に情報提供し患者への結果説明と肝臓専門医への紹介につなげる。
 - 無料肝炎ウイルス検査の手続き方法が分かる人につなぐ。(職員への周知)
 - 受検勧奨のポスターを掲示する。
 - 職員に対し、患者さんへの受検勧奨を依頼する。
 - 肥満など生活習慣病をもっている患者さんに FIB-4index の検査値を伝える。
 - 受検勧奨資材の見直しをする。
 - 自分の担当の患者さんの受検歴を調べる。

患者さん だからこそ

- 身近な人に肝炎ウイルス検査の必要性を説明する。
- 同窓会で、肝炎ウイルス検査について説明する。
- 無料肝炎ウイルス検査について案内する。

受診

肝炎ウイルス検査 陽性者に肝臓専門医での 精密検査を勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 症状がない肝炎患者に受診の必要性を説明する。(症状がない間にも進行しているのですので受診するように説明)
- 最新の治療方法について、患者さんに紹介し受診に対する心理的なハードルを下げる。
- 肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんに、肝臓専門医がいる医療機関の受診を勧める。
- 肝炎の患者さんで未治療の方がいたら受診を勧める。
- C型肝炎で、過去にインターフェロンの治療をされ、完治していない患者さんに受診を勧める。
- インターフェロン後の副作用が不安で再治療拒否をされる方に対し、DAA 治療は副作用が少ないことを伝える。

- 初回の精密検査費用の助成制度について説明、手続きをサポートする。
- 糖尿病の患者さんは肝がんのリスクが2倍と言われているため腹部超音波検査をしていない場合は検査を勧めたり、Fib4-index 測定し、脂肪肝との関係とハイリスクであることを説明する。
- 眼科や整形外科などの術前検査の際に、肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんには、肝臓専門医がいる医療機関を勧める。
- 肝臓専門医がいる医療機関の一覧を作成し、周知する。
- 問診やカルテから、受検歴と肝炎ウイルス検査が陽性の患者さんの拾い上げを行う。

患者さん だからこそ

- 肝炎ウイルス検査陽性者に受診を勧める。
- 精密検査費助成制度について説明する。

受療

肝炎の治療を 勧める

共通の 活動

- 患者さんの気持ちを傾聴する。
- 過去にインターフェロンなどの治療歴のある患者さんでウイルス排除されていない方に、再度治療を勧める。(医師の確認後)
- インターフェロンを行った患者さんの DAA 治療に対する不安について傾聴する。
- 治療薬を飲み忘れないための方法を患者さんとともに考える。
- B 型肝炎の患者さんに対しステロイドや免疫抑制剤、抗がん剤を使用する場合、B 型肝炎の再活性化のチェックをする。
- 仕事と治療の両立で悩まれている患者さんのサポートをする。(両立支援)
- 医療費助成制度の説明や相談に対応をする。
- ウイルス性肝炎の治療中から治療後も定期検査が必要であることを伝える。
- 入院、外来患者さんに、治療完遂までの継続の重要性を説明、サポートをする。
- 肝炎ウイルス治療において、副作用のほとんどない内服のみでできること、C 型肝炎の治療はウイルス排除ができること、B 型肝炎はウイルスの活動性を抑えることができることを伝える。

患者さん だからこそ

- 治療で悩んでいる患者さんに治療について説明し勧める。
- 自分の体験談を説明する。
- 治療費助成制度について説明する。
- 治療に不安を感じている患者さんの相談に乗る。

フォロー アップ

肝がんの早期発見のため 定期的な検査を勧める

共通の 活動

- 肝炎ウイルス陽性歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。(治療後の発がんリスクを実際の数値で示す。)
- 肝疾患の患者さんになぜ定期検査が必要であるかを説明する。
- 定期検査に来られてない患者さんに連絡する。
- 他の疾患で受診されている患者さんで過去に肝炎ウイルス治療歴のある患者さんの定期検査歴を確認する。
- アルコール依存症の患者さんや家族への対応、支援をする。
- 市民公開講座などを開催し、定期検査の必要性を周知する。
- 治療の初期段階から定期検査の必要性を説明する。
- 定期検査費用の助成制度について説明する。(対象者)

患者さん だからこそ

- 治療歴のある患者さんに定期検査を必ず受けるよう説明する。
- HCV 抗体陽性の意味を周知する。(治療後でも H C V 抗体陽性が継続することを説明する)
- 定期検査がなぜ必要であるか(ウイルスを排除しても肝がんのリスクが残ることを)説明する。